



平成24年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年5月15日

上場会社名 わかもと製薬株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4512 URL <http://www.wakamoto-pharm.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 神谷 信行  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 増田 康彦 TEL 03-3279-0371  
 定時株主総会開催予定日 平成24年6月22日 配当支払開始予定日 -  
 有価証券報告書提出予定日 平成24年6月25日  
 決算補足説明資料作成の有無： 無  
 決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期の連結業績（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期	9,432	△2.4	△499	—	△243	—	△222	—
23年3月期	9,669	△1.1	△755	—	△568	—	△425	—

(注) 包括利益 24年3月期 △58百万円 (—%) 23年3月期 △533百万円 (—%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
24年3月期	△6.38	—	△1.8	△1.4	△5.3
23年3月期	△12.30	—	△3.4	△3.3	△7.8

(参考) 持分法投資損益 24年3月期 ー百万円 23年3月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期	16,849	12,102	71.8	347.85
23年3月期	17,176	12,164	70.8	349.50

(参考) 自己資本 24年3月期 12,102百万円 23年3月期 12,164百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
24年3月期	589	△505	197	1,870
23年3月期	346	△316	△150	1,587

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

3. 平成25年3月期の個別業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,900	3.9	△120	—	△90	—	△70	—	△2.01
通期	10,200	8.4	50	—	150	—	130	—	3.74

当社は、平成25年3月期より個別のみの開示になります。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無  
② ①以外の会計方針の変更： 無  
③ 会計上の見積りの変更： 無  
④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年3月期	34,838,325株	23年3月期	34,838,325株
② 期末自己株式数	24年3月期	45,886株	23年3月期	31,391株
③ 期中平均株式数	24年3月期	34,800,614株	23年3月期	34,595,717株

(参考) 個別業績の概要

1. 平成24年3月期の個別業績（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

(1) 個別経営成績 (％表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期	9,412	△2.3	△505	－	△247	－	△122	－
23年3月期	9,629	△1.1	△788	－	△584	－	△435	－

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期	△3.53	－
23年3月期	△12.58	－

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
24年3月期	16,849		12,102		71.8		347.85	
23年3月期	17,060		12,065		70.7		346.63	

(参考) 自己資本 24年3月期 12,102百万円 23年3月期 12,065百万円

2. 平成25年3月期の個別業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	4,900	3.9	△120	－	△90	－	△70	－	△2.01
通期	10,200	8.4	50	－	150	－	130	－	3.74

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表の監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「経営成績に関する分析」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	4
(4) 事業等のリスク	4
2. 企業集団の状況	5
3. 経営方針	6
(1) 会社の経営の基本方針	6
(2) 目標とする経営指標及び中長期的な会社の経営戦略	6
(3) 会社の対処すべき課題	6
(4) その他、会社の経営上重要な事項	6
4. 連結財務諸表	7
(1) 連結貸借対照表	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	9
連結損益計算書	9
連結包括利益計算書	10
(3) 連結株主資本等変動計算書	11
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	13
(5) 継続企業の前提に関する注記	15
(6) 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更	15
(7) 連結財務諸表に関する注記事項	15
(開示の省略)	15
(セグメント情報)	16
(1株当たり情報)	18
(重要な後発事象)	18
5. その他・役員の変動	18

## 1. 経営成績

### (1) 経営成績に関する分析

業績の概要については、次のとおりであります。

当連結会計年度における医薬品業界は、引き続き医療費抑制策の基調は変わらず、また、一般用医薬品市場も低迷が続いており、厳しい環境下で推移いたしました。

そのなかにあつて当社グループの医薬事業では、主力製品である「ジクロード点眼液0.1%」、「リズモンTG点眼液」、「ゼベリン点眼液0.1%」等の点眼剤、緑内障・高眼圧症治療点眼後発薬「ラタノプロスト点眼液0.005%わかもと」・「ラタノプロスト点眼液0.005%NP」、眼科手術補助剤「マキユエイド硝子体内注用40mg」の販売促進に加え、眼科用アデノウイルス抗原検出キット「キャピリア アデノ アイ Neo」、広範囲抗菌剤「レボフロキサシン点眼液0.5%わかもと」等を発売し普及活動に注力いたしました。

薬粧事業では、主力製品である「強力わかもと」に加え、薬用歯磨き（医薬部外品）「アバンビーズ」シリーズとして、「アバンビーズ シトラスミント味」「アバンビーズ ラ・フランスミント味」「アバンビーズ ワイルドミント味」「アバンビーズ ダンプランシュ」「アバンビーズ コーラルε（イプシロン）」の5製品を昨年3月にリニューアル発売いたしました。

特販事業では、海外向けに「わかもと」、乳酸菌および点眼剤を、国内向けに医薬品原料の販売と他社受託品の製造販売に努めてまいりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は94億3千2百万円(前期比2.4%減)、営業損失4億9千9百万円(前期は営業損失7億5千5百万円)、経常損失2億4千3百万円(前期は経常損失5億6千8百万円)、当期純損失2億2千2百万円(前期は当期純損失4億2千5百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

セグメント別の売上高の状況につきましては、医薬事業では、「マキユエイド硝子体内注用40mg」、「ラタノプロスト点眼液」が売上に寄与しましたが、主力製品の「ジクロード点眼液0.1%」、「リズモンTG点眼液」、「ゼベリン点眼液0.1%」、が減少いたしました。その結果、売上高は55億3百万円(前期比4.8%減)となりました。

薬粧事業につきましては、主力製品の「強力わかもと」が横ばいで推移し、「アバンビーズ」シリーズが増加いたしました。その結果、売上高は19億5千1百万円(前期比2.4%増)となりました。

特販事業では、国内向け他社受託品が大幅に減少しましたが、海外向け「わかもと」等が堅調に推移いたしました。その結果、売上高は19億3千1百万円(前期比0.6%減)となりました。

研究開発の状況につきましては、次のとおりであります。

研究開発につきましては、効率化・集中化を図るため組織の一本化とプロジェクト制により、一層のスピードアップに努めてまいりました。

そのなかで、医療用医薬品につきましては、眼科領域の製品ラインアップ充実のため、特徴のある新薬、差別化した後発品(熱応答ゲル技術などを応用した特徴ある製剤処方、点眼容器の工夫など)の開発に取り組んでおります。新規の眼科用剤として、網膜症治療薬の承認申請を行い今年度中には上市を予定しております。さらに同治療薬の適用拡大、BBG(新製品)についても臨床準備中です。

薬粧品につきましては、今後とも引き続きオリジナリティーのある製商品の開発に取り組み、ヘルスケア製商品の充実を図るべく特色のある乳酸菌や強力わかもと素材などを用いた製品開発を進めてまいります。

次期の見通しにつきましては、次のとおりであります。

医薬品業界は医療費抑制のなか依然として厳しい状況が続くものと予想され、当社においても主力点眼剤の後発品参入等、さらに厳しさが加速する状況にあります。

当社は2012年度を初年度とする5ヵ年中期経営計画のアクションプランに基づき、市場ニーズにあつた新製品・改良後発品の上市を目指してまいります。さらに相模大井工場第二点眼製剤棟の稼働率アップに向け、製造・販売部門の経営資源を集中し、生産基盤の強化を図ってまいります。

以上の結果、平成25年3月期につきましては、売上高102億円(前期比8.4%増)、営業利益5千万円(前期は4億9千9百万円の営業損失)、経常利益1億5千万円(前期は2億4千3百万円の経常損失)、当期純利益1億3千万円(前期は2億2千2百万円当期純損失)を見込んでおります。売上高増加、利益項目が改善する主たる要因は、新製品の売上増及び減価償却費の減少等によるものです。

## (2) 財政状態に関する分析

### ①資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における総資産は、168億4千9百万円となり前連結会計年度末比3億2千7百万円(1.9%減)の減少となりました。流動資産は83億5百万円となり7千1百万円(0.9%増)の増加、固定資産は85億4千3百万円となり3億9千9百万円(4.5%減)の減少となりました。

流動資産が増加いたしましたのは、現金及び預金が増加したことが主たる要因であり、固定資産が減少いたしましたのは、相模大井工場の減価償却により、有形固定資産(建物及び構築物、機械装置及び運搬具、他)が減少したことが主たる要因であります。

一方、負債の部は、47億4千7百万円となり前連結会計年度末比2億6千4百万円(5.3%減)の減少となりました。流動負債は19億3千3百万円となり3億8千万円(16.4%減)の減少、固定負債は28億1千3百万円となり1億1千5百万円(4.3%増)の増加となりました。

流動負債が減少いたしましたのは、支払手形及び買掛金が減少したことが主たる要因であり、固定負債が増加いたしましたのは、長期借入金が増加したことが主たる要因であります。

純資産の部は、121億2百万円となり前連結会計年度末比6千2百万円(0.5%減)の減少となりました。利益剰余金が減少したことが主たる要因であります。この結果、自己資本比率は、前期末の70.8%から71.8%となりました。

### ②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末から2億8千2百万円増加し、18億7千万円となりました。その内容の主なものは次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において営業活動により増加した資金は5億8千9百万円となりました。(前年同期に比べ収入が2億4千2百万円増加)

この主な要因は、非資金支出項目である減価償却費が10億8百万円、売上債権の減少が3億9千2百万円あった一方、税金等調整前当期純損失が1億2千7百万円、仕入債務の減少が4億3百万円あったためであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において投資活動により減少した資金は5億5百万円となりました。(前年同期に比べ支出が1億8千8百万円増加)

この主な要因は、有形固定資産(主に相模大井工場の設備)の取得が3億9千万円、無形固定資産(主に特許実施権)の取得が3億3千5百万円あった一方、有形固定資産(主に賃貸事業に係る不動産)の売却が1億4千3百万円、無形固定資産(主に借地権)の売却が9千8百万円あったためであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において財務活動により増加した資金は1億9千7百万円となりました。(前年同期は1億5千万円の資金の減少)

この主な要因は、短期借入れによる収入が1億円、長期借入れによる収入が3億円あった一方、長期借入金の返済による支出が1億9千6百万円あったためであります。

### (参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期
自己資本比率(%)	75.2	71.9	71.6	70.8	71.8
時価ベースの自己資本比率(%)	79.5	75.5	63.5	51.7	51.0
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	—	—	326.9	411.5	276.6
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	—	—	25.7	12.4	20.4

自己資本比率 : 自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率 :

株式時価総額(期末株価終値×期末発行済株式数(自己株式控除後))/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債/営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ : 営業キャッシュ・フロー/利払い

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は利益配分につきましては、安定配当を維持しながら、財務体質の強化を図りつつ、製造設備・技術の強化、研究開発、営業活動の強化のための投資に積極的に資金を充当し、企業価値の増大を目指したいと考えております。

しかしながら、当期純損失2億2千2百万円を計上していることから当期の期末配当は無配とさせていただきたく存じます。

また、次期の配当につきましても、内部留保充実の必要性を勘案し、誠に申し訳ありませんが無配の方向で予定しております。

(4) 事業等のリスク

当社グループの財政状態および経営成績に影響を与える可能性のある主なリスクは、以下のようなものがあります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

①法的規制について

当社グループは薬事法をはじめとする、各種の薬事関連の規制のもとにあり、医薬品の開発、製造、流通、その他の段階で、様々な承認・認可制度や監視制度が設定されております。これらの規制の新設および強化等により財政状態および経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

②薬価改定について

医療用医薬品では、概ね2年ごとに実施される薬価改定により医薬品の薬価が下がる可能性があります。販売価格の下落により財政状態および経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

③医薬品の開発について

医薬品の開発には多くの費用・労力・時間を要しますが、それにもかかわらず、商業的に成功する製品とならない可能性があります。研究開発の成果を享受できない場合、財政状態および経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

④訴訟リスクについて

当社グループが営業活動を行なうにあたり、製造物責任（PL）関連、環境関連等に関し、訴訟を提起される可能性があります。訴訟を提起された場合、財政状態および経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

⑤災害・事故等について

当社グループの生産拠点は相模大井工場の1ヵ所のみであるため、この地域において大規模災害の発生や事故等により、操業中断に追い込まれる事態になった場合、財政状態および経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

⑥製商品の販売状況について

当社医療用医薬品事業の主力点眼剤の後発品参入等により、これら競合品との競争激化が、財政状態および経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

これらの他にも様々なリスクが存在しており、ここに記載されたリスクが当社の全てのリスクではありません。

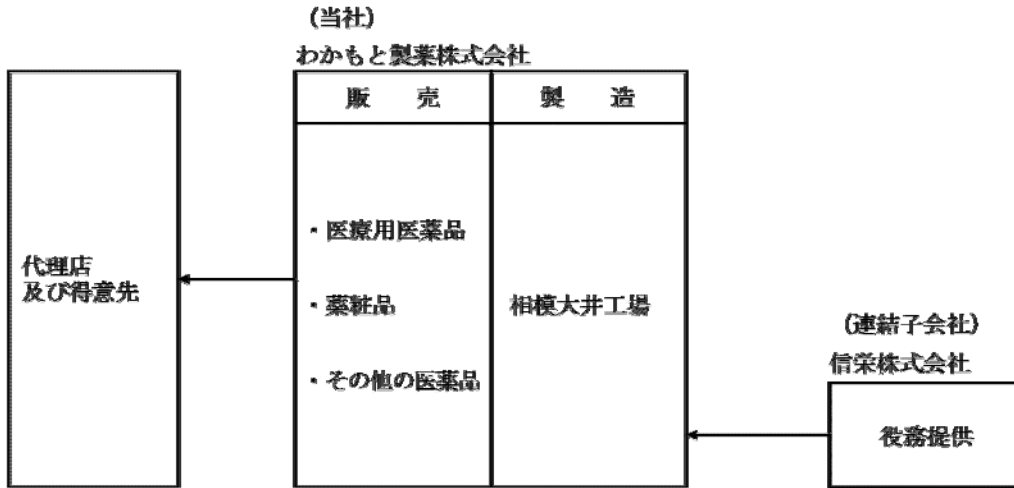
## 2. 企業集団の状況

当社グループ（当社および当社の関係会社）は、当社（わかもと製薬株式会社）および、連結子会社1社より構成されており、医療用医薬品（主な製品名：「ジクロード点眼液」「リズモンTG点眼液」）、化粧品（主な製品名：「強力わかもと」）、その他の医薬品（医薬品原料）の製造、販売を主たる業務としております。

当社グループの事業内容および当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。当社が医薬品の製造および販売（輸出を含む）を行い、連結子会社信栄株式会社は当社の不動産設備の管理並びに相模大井工場の警備、緑化作業業務を営んでおります。

また、平成23年5月1日を合併期日として当社の連結子会社である信栄株式会社を吸収合併致しました。

〔事業系統図〕



### 3. 経営方針

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社は、セルフメディケーションを推進し人々の健康に対するニーズに合わせ、医療用医薬品、OTC医薬品、その他健康関連商品等、幅広い製品の開発、販売を行っていきます。高度な技術と高い倫理観のもと、健康関連の医薬品メーカーとして長年の経験を通じ、誇りと責任を持ち続け社会に貢献します。

#### (2) 目標とする経営指標及び中長期的な会社の経営戦略

- ①特徴と競争力ある企業体質を構築
- ②コストコントロールを徹底し、収益力を強化
- ③活力ある企業風土の醸成
- ④永続的企業発展

以上の目標を達成すべく、平成24年4月20日に5ヵ年中期経営計画を策定し開示いたしました。

#### (3) 会社の対処すべき課題

医薬品業界は医療費抑制のなか依然として厳しい状況が続くものと予想され、当社においても主力点眼剤の後発品参入等、さらに厳しさが加速する状況にあります。

医薬事業につきましては、眼科領域での医療ニーズにあった製品の上市と眼科関連製品の全国的な販売活動を行うこと等により相乗効果を上げ、幅広い市場浸透を目指してまいります。

薬粧事業につきましては、消費者のニーズにあった製品を上市し、「強力わかもと」「アバンビーズ」をはじめとする当社製品の特徴を分かりやすく広告宣伝し、愛用者の拡大に努めてまいります。

特販事業につきましては、当社で培われた乳酸菌製剤技術に基づく製品の国内市場のみならず海外での浸透に努めてまいります。

またスピード感ある経営の実践、全社的な業務改革を継続的に進め、コスト削減、製品の高品質・低原価に努めてまいります。

#### (4) その他、会社の経営上重要な事項

該当事項はありません。



4. 連結財務諸表  
 (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,222,576	1,464,392
受取手形及び売掛金	3,956,058	3,563,872
有価証券	405,364	405,702
商品及び製品	1,336,120	1,410,438
仕掛品	335,759	399,005
原材料及び貯蔵品	537,121	505,329
未収還付法人税等	3,064	2,809
繰延税金資産	286,011	407,517
その他	152,027	146,761
流動資産合計	8,234,104	8,305,831
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,339,056	3,175,936
機械装置及び運搬具（純額）	1,704,421	1,339,203
土地	393,736	357,583
建設仮勘定	157,696	57,512
その他（純額）	125,139	71,998
有形固定資産合計	5,720,050	5,002,234
無形固定資産		
特許実施権	—	300,000
借地権	67,707	51,277
ソフトウェア	33,199	50,717
その他	6,143	6,043
無形固定資産合計	107,050	408,038
投資その他の資産		
投資有価証券	1,425,371	1,649,897
保険積立金	725,298	800,214
繰延税金資産	884,076	602,927
その他	80,997	80,503
投資その他の資産合計	3,115,744	3,133,543
固定資産合計	8,942,845	8,543,815
資産合計	17,176,950	16,849,646

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,206,535	802,645
未払金及び未払費用	452,642	419,473
短期借入金	196,000	296,000
未払法人税等	30,745	30,065
未払消費税等	21,981	—
賞与引当金	174,800	192,600
返品調整引当金	7,000	10,000
設備関係支払手形	45,076	27,842
設備関係未払金	151,180	125,279
その他	28,018	30,034
流動負債合計	2,313,979	1,933,942
固定負債		
長期借入金	1,230,000	1,334,000
退職給付引当金	1,297,817	1,330,743
役員退職慰労引当金	165,900	145,900
長期預り金	4,403	2,590
固定負債合計	2,698,121	2,813,233
負債合計	5,012,100	4,747,176
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,395,887	3,395,887
資本剰余金	2,675,826	2,675,826
利益剰余金	6,124,537	5,902,075
自己株式	△10,306	△13,558
株主資本合計	12,185,944	11,960,229
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△21,094	142,241
その他の包括利益累計額合計	△21,094	142,241
純資産合計	12,164,849	12,102,470
負債純資産合計	17,176,950	16,849,646

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高	9,669,815	9,432,946
売上原価	4,494,712	4,348,319
売上総利益	5,175,102	5,084,627
返品調整引当金戻入額	2,000	—
返品調整引当金繰入額	—	3,000
差引売上総利益	5,177,102	5,081,627
販売費及び一般管理費	5,932,482	5,580,755
営業損失(△)	△755,379	△499,127
営業外収益		
受取利息	1,301	625
受取配当金	32,435	34,346
受取地代家賃	29,527	25,985
受取技術料	159,411	196,967
保険返戻金	6,716	14,972
その他	52,565	55,660
営業外収益合計	281,958	328,557
営業外費用		
支払利息	27,971	28,933
固定資産除却損	9,060	8,335
寄付金	47,055	17,135
その他	11,229	18,580
営業外費用合計	95,316	72,986
経常損失(△)	△568,737	△243,556
特別利益		
固定資産売却益	—	133,462
役員退職慰労引当金戻入額	—	20,000
本社移転費用引当金戻入額	1,456	—
特別利益合計	1,456	153,462
特別損失		
投資有価証券評価損	34,843	24,058
固定資産除却損	24,700	13,333
特別損失合計	59,543	37,392
税金等調整前当期純損失(△)	△626,824	△127,486
法人税、住民税及び事業税	23,126	17,309
法人税等調整額	△224,445	77,374
法人税等合計	△201,318	94,683
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△425,505	△222,170
当期純損失(△)	△425,505	△222,170

## (連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
少数株主損益調整前当期純損失 (△)	△425,505	△222,170
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△107,911	163,335
その他の包括利益合計	△107,911	163,335
包括利益	△533,417	△58,834
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△533,417	△58,834

## (3) 連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	3,395,887	3,395,887
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	3,395,887	3,395,887
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	2,675,826	2,675,826
当期変動額		
自己株式の処分	△71,809	△292
自己株式処分差損の振替	71,809	292
当期変動額合計	—	—
当期末残高	2,675,826	2,675,826
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	6,707,794	6,124,537
当期変動額		
剰余金の配当	△85,941	—
当期純損失(△)	△425,505	△222,170
自己株式処分差損の振替	△71,809	△292
当期変動額合計	△583,257	△222,462
当期末残高	6,124,537	5,902,075
<b>自己株式</b>		
当期首残高	△192,544	△10,306
当期変動額		
自己株式の取得	△8,117	△4,353
自己株式の処分	190,355	1,101
当期変動額合計	182,237	△3,252
当期末残高	△10,306	△13,558
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	12,586,963	12,185,944
当期変動額		
剰余金の配当	△85,941	—
当期純損失(△)	△425,505	△222,170
自己株式の取得	△8,117	△4,353
自己株式の処分	118,545	808
当期変動額合計	△401,019	△225,714
当期末残高	12,185,944	11,960,229

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	86,816	△21,094
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△107,911	163,335
当期変動額合計	△107,911	163,335
当期末残高	△21,094	142,241
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	86,816	△21,094
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△107,911	163,335
当期変動額合計	△107,911	163,335
当期末残高	△21,094	142,241
純資産合計		
当期首残高	12,673,780	12,164,849
当期変動額		
剰余金の配当	△85,941	—
当期純損失（△）	△425,505	△222,170
自己株式の取得	△8,117	△4,353
自己株式の処分	118,545	808
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△107,911	163,335
当期変動額合計	△508,931	△62,378
当期末残高	12,164,849	12,102,470

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純損失 (△)	△626,824	△127,486
減価償却費	1,204,576	1,008,261
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	24,263	32,925
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△83,500	17,800
本社移転費用引当金の増減額 (△は減少)	△38,000	—
受取利息及び受取配当金	△33,737	△34,971
保険返戻金	△6,716	△14,972
支払利息	27,971	28,933
有形固定資産除却損	45,603	9,983
有形固定資産売却損益 (△は益)	—	△68,532
無形固定資産売却損益 (△は益)	—	△64,929
投資有価証券評価損益 (△は益)	34,843	24,058
売上債権の増減額 (△は増加)	107,815	392,185
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△533,364	△105,773
仕入債務の増減額 (△は減少)	456,276	△403,890
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△29,597	△23,257
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	—	△20,000
その他の資産の増減額 (△は増加)	△43,945	△22,029
その他の負債の増減額 (△は減少)	△161,387	△23,939
小計	344,277	604,366
利息及び配当金の受取額	33,737	34,971
利息の支払額	△28,410	△28,388
法人税等の還付額	10,375	3,064
法人税等の支払額	△13,466	△24,757
営業活動によるキャッシュ・フロー	346,513	589,256
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	200,000	40,000
有形固定資産の取得による支出	△467,558	△390,789
有形固定資産の売却による収入	—	143,500
無形固定資産の取得による支出	△10,173	△335,859
無形固定資産の売却による収入	—	98,500
投資有価証券の取得による支出	△2,838	△2,980
投資有価証券の売却による収入	1,000	—
その他の投資等の取得による支出	△159,512	△142,564
その他の投資等の売却による収入	122,432	85,092
投資活動によるキャッシュ・フロー	△316,650	△505,101
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	—	100,000
長期借入れによる収入	—	300,000
長期借入金の返済による支出	△174,000	△196,000
自己株式の処分による収入	118,512	808
自己株式の取得による支出	△8,084	△4,353
配当金の支払額	△86,757	△2,457
財務活動によるキャッシュ・フロー	△150,329	197,997

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△120,466	282,153
現金及び現金同等物の期首残高	1,708,407	1,587,941
現金及び現金同等物の期末残高	1,587,941	1,870,094



(5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(6) 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更

項目	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1. 連結の範囲の変更	当社は、連結子会社である信栄株式会社を平成23年5月1日付けで当社を存続会社とする吸収合併を行いました。なお、吸収合併日までを含めた連結財務諸表を作成しております。

(7) 連結財務諸表に関する注記事項

(開示の省略)

リース取引、関連当事者情報、税効果会計、金融商品、有価証券、デリバティブ取引、退職給付、ストックオプション等、企業結合等、賃貸等不動産に関する注記事項については、決算短信における開示の必要性が大きいと考えられるため開示を省略しております。

(セグメント情報)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、営業組織として分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に医薬事業部、薬粧事業部、特販部を置き、それぞれの部署が取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、上記3部門を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「医薬事業」、「薬粧事業」、「特販事業」の3事業を報告セグメントとしております。

「医薬事業」は、医療用医薬品の製造・販売をしております。「薬粧事業」は一般用医薬品及び医薬部外品の製造・販売をしております。「特販事業」は、医薬品原料、輸出品、中間製品、他製薬会社への製品の製造・販売をしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの利益又は損失は、営業利益又は営業損失ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

I 前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注3)	連結 財務諸表計 上額 (注2)
	医薬事業	薬粧事業	特販事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	5,780,659	1,905,960	1,943,039	9,629,658	40,156	9,669,815	—	9,669,815
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	45,789	45,789	△45,789	—
計	5,780,659	1,905,960	1,943,039	9,629,658	85,945	9,715,604	△45,789	9,669,815
セグメント利益又は 損失(△)	△767,033	△70,388	49,099	△788,322	32,942	△755,379	—	△755,379
セグメント資産	7,528,163	2,261,426	2,158,664	11,948,254	126,530	12,074,785	5,102,165	17,176,950
その他の項目								
減価償却費	972,420	113,643	115,854	1,201,918	2,658	1,204,576	—	1,204,576
有形固定資産及び 無形固定資産の 増加額	192,460	63,456	64,691	320,608	—	320,608	—	320,608

(注) 1. 報告セグメントに含まれない「その他」の内容は、主として不動産賃貸業であります。

2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業損失と一致しております。

3. セグメント資産のうち、調整額に含めた全社資産の金額は、5,102,165千円であり、その主なものは、親会社での余資運用資金（現金預金及び有価証券）及び長期投資資金（投資有価証券）であります。

II 当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注3)	連結 財務諸表計 上額 (注2)
	医薬事業	薬粧事業	特販事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	5,503,463	1,951,299	1,931,348	9,386,111	46,835	9,432,946	—	9,432,946
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	1,868	1,868	△1,868	—
計	5,503,463	1,951,299	1,931,348	9,386,111	48,704	9,434,815	△1,868	9,432,946
セグメント利益又は 損失（△）	△498,041	△102,632	74,412	△526,261	27,133	△499,127	—	△499,127
セグメント資産	7,223,656	2,051,869	1,942,174	11,217,700	71,219	11,288,920	5,560,726	16,849,646
その他の項目								
減価償却費	776,362	114,539	113,368	1,004,270	3,991	1,008,261	—	1,008,261
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	583,400	100,482	99,454	783,337	360	783,697	—	783,697

（注）1. 報告セグメントに含まれない「その他」の内容は、主として不動産賃貸業であります。

2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業損失と一致しております。

3. セグメント資産のうち、調整額に含めた全社資産の金額は、5,560,726千円であり、その主なものは、親会社での余資運用資金（現金預金及び有価証券）及び長期投資資金（投資有価証券）であります。

## (1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	349円 50銭	347円 85銭
1株当たり当期純損失(△)	△12円 30銭	△6円 38銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また潜在株式が存在していないため記載しておりません。	同左

(注) 1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純損失(△)		
当期純損失(△) (千円)	△425,505	△222,170
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純損失(△) (千円)	△425,505	△222,170
期中平均株式数 (千株)	34,595	34,800

## (重要な後発事象)

当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

## 固定資産の譲渡

平成24年3月16日開催の取締役会において、以下のとおり、固定資産を譲渡することについて決議いたしました。

## (1) 譲渡の理由

経営資源の効率的活用及び財務体質の強化を図るため。

## (2) 譲渡資産の内容

- ①種類 土地 (地積595.10㎡)
- ②所在地 大阪市東淀川区豊里6-29-6
- ③現状 大阪支店

## (3) 譲渡の相手先の名称

株式会社近畿住宅流通

## (4) 譲渡の日程

契約締結日 平成24年4月10日  
引渡期日 平成25年1月末日 (予定)

## (5) 譲渡価格

譲渡価格 161,000千円  
帳簿価額 16,031千円

## (6) 損益に与える影響

(5)に記載のとおりであります。

## 5. その他・役員の異動

## (1) 役員の異動

役員の異動につきましては、平成24年3月28日に開示済みであります。

## (2) その他

該当事項はありません。

以上